

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4091601239		
法人名	社会福祉法人 平和の聖母		
事業所名	グループホームメゾンマリア		
所在地	福岡県久留米市津福本町字草場272-1 (電話)0942-35-8777		
自己評価作成日	令和5年12月1日	評価結果確定日	令和6年3月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

事業所近隣には社会医療法人や学校法人等のグループ法人があり、サービス面に留まらず、地域の社会資源として多様な面で連携している。立地面でも公共の交通機関や医療機関等も充実しており、好評を得ている。ICT化を推進とケアの個別性に向け、全室に眠りスキャンを導入し、合わせて日常の記録等への円滑化及び簡素化に繋がっている。建物内部は温かみのある色合いで、中庭からは陽光が差し造りとし、個別の収納やベッド等の機器も充実させている。各ユニットの多目的室は、家族の面会等に活用できる。運営推進会議では、書面開催以外は毎回複数の家族の参加があり、様々な意見等を得られている。併施設設と非常災害時、食事面、地域貢献面で連携することで、一つの事業所の枠に留まらないサービスを提供している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和6年2月28日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

鉄筋コンクリート造りの2階建てで、2ユニットの事業所である。近隣には駅や民家、店舗があり、同法人のケアハウスやデイサービスセンター等が併接している。全室南側に居室があり、中庭にウッドデッキやベンチがあり、利用者は外気浴や花の水やりを楽しんでいる。廊下に面した二重ガラス張りには、暖かな日差しが差し込んでおり、利用者は椅子に座って日光浴をしている。広々としたホールは床暖房になっており、車いすでも使用できるシステムキッチンがあり、利用者も作業しやすいように工夫されている。24時間換気やアロマを使用し、衛生的でリラックスできる環境を整えている。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	時間帯、頻度は異なるが、職員が各自唱和している。合わせて、管理者がグループ法人を通して、理念の実践に通ずる研修等に参加している。職員研修や新入職員研修にも組み入れ、その浸透に繋げている。	カトリックの精神と福祉の理念に沿った事業所の理念がある。地域に寄り添い、地域に貢献した活動を実践しており、職員は出勤時や会議の時に理念を唱和し、利用者に対する尊厳や接遇等、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	これまで地域を交えたイベントを定期的に行っていたが、コロナウィルスの影響により実践できていない。地域の保育園へは、オンラインを活用しての交流を続けている。	事業所主催で地域の清掃活動や子ども食堂、介護者のおしゃべり会を開催している。法人で行うバザーやクリスマス会は地域の方が参加している。利用者は職員と一緒に保育園の七夕会や雑祭りに参加する等、地域の一員として日常的に交流している。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと協働で、地域住民向けに認知症に関するおしゃべり会を継続して実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	短時間で実施する中で、有意義な場となるよう、内容や進行方法を工夫し、意見、要望等の促進に繋げている。	運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、利用者や家族、町内会役員、市介護保険課や地域包括支援センター職員が参加している。事業所の活動状況やおしゃべり会、研修等の報告を行っている。会議の中で家族から外出活動の相談を受けたり、町内会役員から給湯器詐欺への注意喚起がある等、意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営及びサービス提供に係る内容は、都度確認することで、適正なサービス提供に繋がっている。運営推進会議の場でも助言があり、合わせて意見交換の場にもなっている。	行政に対して運営上の相談を行ったり、行政窓口へ出向く等して、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	担当職員の配置、規程の制定、指針の更新、委員会での月毎の発生状況の有無を確認している。意識と知識の向上を図れるよう、研修については複数回実施している。環境面では、利用者の安全面及び防犯面にも配慮した上で、メイン玄関の常時施錠は避け、閉塞感が排除できるような造りとしている。	玄関は外側からは入れないが、内側からは開くようになっている。ユニット玄関はカードキーで施錠されているが、利用者がドアに手をかける前に開錠し、見守りや付き添いを行っている。居室や中庭への出入口は施錠しておらず、利用者は自由に過ごすことができる。職員は研修に参加し、拘束しないケアに取り組んでいる。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されないよう注意を払い、防止に努めている	月1回以上は発生状況等の確認を進め、状況を見ながら外部講師を招いての研修を実施している。防止への方策として、接遇面での意識向上を図っており、その研修についても内部外部問わず実施参加を促進することで、日常からの言葉遣いにも気を配っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度理解が十分ではないため、外部講師による研修を実施予定である。事業所全体を通して、制度内容に関する知識が少ないため、研修を通して、制度理解を積み重ねると共に、その動向も把握できるよう参考資料やリーフレットを活用している。	家族に対する権利擁護の制度に関する説明は、入居時や必要に応じて行っている。内部研修を実施して職員は制度に関する理解を深めている。研修資料や報告書を保管している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書について、しっかりと丁寧に説明をしながら、項目毎に不明な点等について確認している。内容の変更については、必ず説明の上随時覚書を取り交わすこととしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の関わりを通して、利用者からの要望や意見をケアに反映させている。家族からは面会や電話連絡時、運営推進会議等での把握に努め、常時意見箱を設置している。第三者委員や市町村窓口、運営適正化委員会等の外部機関についての説明を行い、第三者委員においては、定期的に助言を得る機会を設けている。	日頃の関わりや会話の中で、利用者の意見が出やすいように言葉かけを行っている。家族に対しては、運営推進会議や面会時、電話等で要望を聞き取り、面会の緩和や外出の希望等、出された意見を運営に反映させている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	継続して定期的な職員面談での現状確認や会議及びミーティング等を通じての意見集約を実施し、積極的に業務に反映させている。利用者目線を重視したアイデアを取り入れることで、更なる意見の活発化に繋げている。	施設長や主任はミーティングや業務中に職員へ声をかけたり、個別面談の際に意見や提案を聞いている。業務で必要な福祉機器の必要性を汲み取り運営に反映させたり、夜勤者がリラクセスして仮眠ができるようにリクライニングソファを購入して環境を整える等、職員の意見を運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	モチベーションアップに向けて、コミュニケーション空間の構築、ハード面の充実を推進している。各規則規程も適宜見直し、キャリアパス規程をもとに昇給昇格も実施している。退職金制度と共に所得補償保険にも加入し、将来的な部分も手厚くすることで、就労環境の向上の一つとしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用にあたっては、意欲や姿勢を重視し、個性や能力を発揮できるようにしている。役職者についても同様で、幅広い年齢層や性別を問わず配置することで、全職員が目標や希望を保持できる組織風土の醸成に繋げている。	職員の採用は施設長と主任が行い、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。定年後も希望に応じて再雇用し、職員が能力を発揮し、生き生きと働けるように配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	専門職としての倫理観を始め、その責務や在るべき姿勢について定期的に学ぶ機会を設けている。随時掲示物や文書等を活用し啓発に努め、事業所の枠組みを越えて情報共有を図っている。	施設長は利用者に対する人権を尊重するために、職員が研修に参加する機会を設け、基本的人権の理解に努めている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員は独自の研修プログラムを実施している。既存職員は様々な内外の研修や適宜他事業の現場研修や職員研修での事例発表等を通して、柔軟な視点の醸成につなげている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	徐々に緩和されてきてはいるが、以前のような交流は持っていない状況となっている。加入する外部団体とは事業所単位ではなく、個人単位での交流が再開傾向にあり、それらに参加している。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との関わりの場を設ける前の家族やサービス事業者等の関係者からの情報収集を徹底している。その上で、コミュニケーションを取る際には受容を意識し、安心できる場所、存在であることを感じ取れるように心がけている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	外観、玄関を始め施設全体に加え、そこで働く職員の雰囲気作りを意識し、要望や希望を引き出せるようにしている。徐々に直接顔を合わせてのコミュニケーションが取れてきており、可能な限り要望に応じている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な情報をもとに本人の状態を把握し、それをもとに本人や家族のニーズを汲み取っている。事業所内で共有することで、スムーズな支援展開に繋げている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に対する礼節の部分を重ねた雰囲気作りを事業所の方針としている。研修を始めミーティング等を通して、常に利用者目線を意識した環境作りに努めている。その上で、声かけや活動内容を工夫し、互いに支え合っている関係性の構築に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	対面での面会には時間の制限を設けている中、オンラインも活用した関わりを継続している。可能な限り家族の要望も実現することで、共同でのケアの提供に繋げている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や面会は緩和されたものの、未だ制限している状況下であり、関係性の維持は実現できていない。頻度は減るものの、個別での具体的な対応方法を模索している。	職員は利用者との昔話等から馴染みの人や場所を聴き取り、家族からは仕事や好物、会いたい人等を聞き取る用紙を送付して把握している。知人に手紙を送る支援をしている。コロナ禍前に行っていた夢実現活動の再開を検討しており、馴染みの関係が途切れないように努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者間の橋渡し役となることで、会話や活動のきっかけ作り、関係性の構築に繋げている。その中で個性を理解した上で、気遣いの言葉や行動も垣間見える。今後も関係性を深める支援をする。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了後もイベント等のお知らせや知り合いの入居相談等もあっており、必要に応じてフォローすることで関係性も継続している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者個別に担当職員を配置し、その職員を中心に複数の職員の視点でアセスメントすることとしている。日常の会話や非言語の部分も含めて意向を汲み取ることで、ユニット内にて検討を重ねることで可能な限り実現に繋げている。	職員は日々の会話の中から利用者の意向を聴き取ったり、汲み取ったりしている。新しい情報等は職員間で共有している。利用者からの聴き取りが難しい場合は、所定の用紙を家族に渡し、利用者のことを書いてもらい、利用者の希望の理解に努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報には無い、これまで自宅等で使用していた、使い慣れた生活用品等を知ること、本人のこだわりや嗜好の把握に繋げている。生活環境の変化は不安感等を招きやすいため、その心身状態も随時確認することとしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	同じ日常の繰り返しではなく、現状が最適であるかについて、常に疑問に持つようにしている。安全面を配慮するあまり、現状の機能から減退しないよう、他事業所の専門職との連携や検討を重ねている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別の担当者を軸に、本人と家族の意向を確認し、主治医や関係職種からの助言も組み入れ、より客観的な計画作成としている。計画作成者は全ユニットを通して1名のため、事業所でも随時検討し、他職種も作成に関わりながらの作成に努めている。	ケアマネジャーは毎月のモニタリングや、職員からの聴き取り、医療情報、家族の意見を反映させた案を作成し、担当者会議で協議し、次期ケアプランとしている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	専用のソフトを基本に利用者や事業所のカラーに合わせた内容に適宜変更し、ユニット毎の共有ノートも活用することで、円滑な情報共有やケアの見直しに繋げている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	制限が続く中、日常の関わりから個々の要望に対し、状況に応じてその実現に取り組んでいる。家族についても電話連絡や面会時において得られる意見等を参考に柔軟に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域向けの併設事業の屋内イベントに参加している。制限が続く中、こちらからも企画実施することで、更なる充実化を図る。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にはこれまで付き合いのあったかかりつけ医を継続とし、意向に沿って受診の支援をしている。心身状態により変更を要する場合は、事前に本人及び家族へ相談の上、決定することとしている。かかりつけ医には、随時連絡、相談をすることで、本人の状態を共有できるように努めている。	入所に伴うかかりつけ医の選択については、利用者や家族の意向を尊重している。事業所は利用者や家族が選択した医療機関に挨拶に出向き、今後の協力関係作りに努めている。利用者の通院については職員による支援を基本としている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護職、連携する訪問看護ステーションとも、定期的な体調確認と併せて、日中夜間問わず相談連絡が取れる体制となっており、常に最新の情報を共有できている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	グループ法人が協力医療機関となっており、総合病院でもあるため主な入院機関となっている。入退院時以外でも日常から適宜MSW等との情報交換、状況によっては併設事業の主任CMにも助言を得ている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まずは契約時に事例を交えながら説明した上で、意向確認している。心身状態が変化した際は、随時再確認し、その方らしい最期の支援に繋げている。家族支援にも適切に提供できるよう、関わり方にも配慮しながら、かかりつけ医や訪問看護とも連携している。	入居契約時に事業所の指針について説明し、同意書を交わしている。同時に「看取りについての事前確認書」により、利用者や家族の望む終末期のケアについて相互に確認し、ケアプラン更新時の担当者会議でその都度再確認している。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	個々も心身状況によっては突発的に発生するため、対応方法はマニュアルを整備し、定期的な訓練と研修を実施している。職員によってスキルに個人差があるため、実践に繋がる研修等を繰り返している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人、拠点全体のBCPのもと、マニュアル整備や併設施設と協働での昼夜を想定した避難訓練を実施している。避難経路も複数設け、安全で確実な避難及びその誘導に繋げている。昨今頻発する、風水害時対策として、排水ポンプによる訓練も実施している。	年2回避難訓練を開催し、うち1回は夜間を想定して実施している。ハザードマップ上は警戒区域に指定されていないが、最近の大雨傾向に備えて、排水ポンプを整備している。避難訓練の際は、事業所周辺に貼り紙をする等して、地域住民への周知に努めている。備蓄品は事業所内に保管しており、消費期限を含めた一覧表を掲示している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いを始めとした接遇面を重要視しており、入職時や定期的な職員研修を通してその意識を高めている。いかなる時も落ち着いた行動し、支援内容や提供場面も客観的な視点を持てるよう努めている。	かけがえのない利用者の尊厳を大切にという理念に立ち、言葉遣いの乱れがケアの乱れに繋がるとの考えから、個人の尊重に繋がるプライバシー保護に関する研修を毎年実施している。希望があれば同性介助による支援を行っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自由に選択し決定できるよう、衣類や食事、入浴等に関する要望を確認することとしている。それら全ての把握には至っておらず、潜在的ニーズと合わせて引き出せるよう、普段の関わりからからも把握する必要がある。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	予定に捉われ過ぎないように、本人の表情や活気等の変化を察知し、その時に沿った一日を過ごせるように配慮している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の衣類は本人主体で選び、状況に応じて声掛けをしながら、おしゃれを楽しむ機会としている。希望に応じ訪問理美容も依頼している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	積極的に調理等に参加できるようなキッチンを設置し、身体状態に合わせた準備や片付けに取り組んでいる。エプロンや三角巾を付けるため、一つの気分転換にもなっており、食事でも色合いや食器に気を配っている。	食事は3食、併設のケアハウスから届いている。ご飯と汁物については事業所で作っている。料理は上品で趣のある食器に盛り付けしている。日曜日の昼食は事業所で作り、利用者の希望を採り入れた献立となっている。ご飯茶碗や汁椀、箸、カップ等は利用者の私物を使用している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体機能のみならず、その日の気分や体調によって食事、水分の摂取量も変動するため、摂取状況は毎回記録している。必要に応じ併設施設の管理栄養士や主治医と協力し、経口補水液の提供や栄養補助食品を始め食事形態も柔軟に対応している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔環境の悪化は、心身機能の低下にも繋がるため、毎食後や就寝前の口腔ケア、義歯洗浄を徹底している。虫歯や義歯に不具合のある場合は、協力歯科機関との連携をもとに、口腔環境の維持向上に繋げている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	身体機能が低下した状態であっても、個別に排泄パターンを把握することで、一人ひとりに沿った声掛けのタイミングや方法を実施している。本人の不快感や負担も軽減できるよう、トイレの設置場所や数、設備面も充実させている。	トイレのドアは引き戸で車いすも利用しやすい。トイレ内の手すりは、利用者の状況に合わせて使用できる可動式となっている。排泄チェック表で排泄パターンを把握し、食事前後や表情、仕草から誘導を行い、トイレでの排泄を促している。パット等の見直しも一人ひとり検討している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な排便リズムは、生活意欲や身体機能全般の低下も防止できるため、チェック表を用いて随時状態確認を行っている。水分摂取や食事メニュー、適度な運動を取り入れることで、自然な排便に繋がるよう努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴時間には具体的な制限は設けず、可能な限り利用者に沿った時間で提供できるようにしている。声かけも工夫することで、個別のシャワールームやシャンプー台も活用し、気分や要望に合わせて提供している。身体状態に合わせて、福祉機器等も活用している。	週3回を目安としているが、利用者の事情や受診等で予定日の入浴ができない際には、他の日に入浴する等、柔軟に対応している。入浴剤を3種類用意し、入浴の度に利用者にとどの入浴剤を入れるか選んでもらっており、利用者の楽しみになっている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な休息を挟みながら、趣味活動を取り入れている。夜間睡眠の妨げにならないよう日中長時間の睡眠は避け、心身状態と日々の変化に注意しながら、声掛けしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法用量を始め各留意点を把握できるよう、薬の説明書を全体で共有している。セット段階時と服用前には声出し確認をしている。服薬後の体調確認についても適宜主治医や薬局等に相談連絡している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	屋内での食事の準備や室内装飾、環境整備を主とし、屋外では草むしりや農作物等への水やり等に取り組んでいる。イベント時には家族等へのプレゼント作成にも取り組んでいる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍に比べ、徐々に近隣への散歩や短時間でのドライブ、移動スーパーでの買い物等が主体となっている。要望に応じて家族との外出も実施しつつ、内部でのイベントを充実させている。	利用者の希望に応じて散歩を行っており、中には毎日散歩に行く利用者もいる。毎週、移動スーパーが併設のケアハウスの駐車場に来ており、利用者は買い物を楽しみにしている。ドライブは月に1～2回行っており、季節の花や名所に出かけている。今後は個別の希望に沿ったドライブを計画する予定である。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	移動スーパーが定期的に来るようになり、お買い物を楽しむことで、お金の使用頻度も以前よりも上がっている。ただし、偏りがあるため、別の手法も検討し実施する必要がある。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙は要望に応じて対応しているため、頻度は少ない。ただし、年賀状等の節目には発信できるようにしている。今後は、気軽に作成できる取り組みを実施する必要がある。継続してオンライン面会も必要に応じて対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	中庭を建物の中心に配置し、開放的で四季の移ろいを感じれるようにしている。室内は採光バランスに配慮し、温かみのある色合いとしている。床暖房やくつろげるソファを設置し、快適な空間に繋げている。混乱を招かぬよう大掛かりな空間の変化は避け、住み慣れた居場所作りを意識している。	建物内は共有棟と居住棟とに分かれており、居住棟に入ると静かな別空間となっている。自室を出て静かに過ごす場所として多目的室や、共有棟と居住棟の間にベンチを設置している。リビングは床暖房で、ソファが置かれ、居心地良く過ごせるよう工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングとは別に多目的室を設け、独りの時間や面会等を通じて、家族等との時間を気兼ねなく過ごせるようにしている。リビングでは、個々で楽しめる趣味活動や集団活動を取り組む場としている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的には制限は設けず、馴染みの物を居室内へ持ち込み、落ち着ける空間造りをサポートしている。清掃もこまめに行い、24時間換気と合わせてゆっくりとした時間軸の中で、快適な居室空間を心掛けている。	居室のドアは引き戸で、車いすでの出入りもしやすい。居室にはベッドやエアコンが用意されている。壁には横長のハンガーラックが取り付けられており、衣類や日用品の収納に配慮された設計となっている。居室には、位牌やテレビ、テーブルや椅子等が持ち込まれ、居心地よく過ごせるように工夫されている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々の身体状態に応じて移動できるよう、建物全体へ手すりを設置し、かつ共用部と居室間にベンチを設けている。専門的な機能維持向上への取り組みは難しいが、定期的に自分のペースで移動できる機会を設けている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			<input type="radio"/>	②家族の2/3くらいと
			<input type="radio"/>	③家族の1/3くらいと
			<input type="radio"/>	④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のようにある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
			<input type="radio"/>	③あまり増えていない
			<input type="radio"/>	④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員全体で唱和し常に意識できるようにしている。それらを体現できるよう、必要に応じて理念に関する研修も実施している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域イベントの開催も徐々に再開となっ てはいるが、積極的な参加は控えている状 況となっている。オンラインを活用した交 流に移行させることで、ある程度の機会 は継続できている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターと協働で、地域住民を 対象にした、認知症に関するおしゃべり 会を小規模で継続して実施している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサ ービス向上に活かしている	以前と比べ規模と時間を縮小しているが、 毎回変わらない参加人数となっており、 特に利用者の処遇や生活面に関しては、 様々な視点で意見が収集できる機会とな っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取り組み を積極的に伝えながら、協力関係を築く よう取り組んでいる	疑問等がある場合には、その都度確認し、 より適正なサービス提供に繋げている。運 営推進会議を通して、事業所の実情を報 告できる機会にもなっており、必要に応 じて助言等を求めることとしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着 型サービス指定基準及び指定地域密着型 介護予防サービス指定基準における禁 止の対象となる具体的な行為」を正しく 理解しており、玄関の施錠を含めて身 体拘束をしないケアに取り組んでいる	計画的に研修を実施することで理解を深 め、指針やマニュアルの整備、拠点単位 での発生状況の確認を継続している。こ こ最近ではスピーチロックに関してこれ まで以降に意識するようになっている。ま た、日々の気づきを事業所全体で共有し 、メイン玄関は常時施錠せずに運営して いる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	委員会を通じて月1回以上は発生状況等を確認、共有している。外部から講師を招いた研修も実施しながら、防止の一つとして、日常からの言葉遣い等、接遇面の意識向上を図っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用する利用者はいないが、今後対応することも十分あるため、研修等を通して制度理解を積み重ねると共に、その動向も把握できるようリーフレット等を活用している。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書については、丁寧に説明しながら、項目毎に不明な点等について確認している。内容の変更については、必ず説明の上随時覚書を取り交わすこととしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者個々の心身機能に合わせて引き出す関わりを意識し、ケアに反映させている。家族等からは面会時や電話連絡の他、運営推進会議等での把握に努めている。第三者委員や市町村窓口、運営適正化委員会等の外部機関に関する説明も契約時に行い、第三者委員においては、定期的に助言を得ている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的な職員への個別面談を通して意見や考えを吸い上げることとしている。ミーティングも適宜実施することで、より具体性のある支援展開を検討している。柔軟なアイデアがより多くの職員から発信できるよう取り組んでいる。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各規則規程の見直しやキャリアパス規程をもとにした昇給昇格も実施している。退職金制度と合わせて所得補償保険にも加入し手厚くすることで、安心した就労環境に繋げている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたり、意欲や姿勢を重視しており、個性を十分に活かせる雰囲気作りに取り組んでいる。役職者についても年齢や性別を問わず配置し、全職員が目標を持続できる組織風土に繋げている。</p>		
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>定期的に入権に関する研修を実施し、外部研修にも参加することで意識を高め、それが持続するようにしている。また、理念と同様に法人単全体で取り組むべきこととし、随時掲示物や文書等での啓発を推進している。</p>		
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>新入職員については、個別の研修プログラムを作成し内容も随時更新することで充実化を図っている。既存職員については、介護技術のみではなく、人員のマネジメントに関する研修にも参加している。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>直接的な交流の機会は確保できておらず、必要に応じて電話連絡にて情報交換している。</p>		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>初期の関わりを持つ前に、ある程度の基本情報について家族やサービス事業者等の関係者から収集している。傾聴、受容と共感を意識し、必要に応じて複数回重ねること、信頼関係の構築に繋げている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>サービスの受け手としての立場を十分に活用できるよう、実例を挙げながら話しを進めることを意識している。また、利用者の小さな変化も随時報告することで、信頼感や安心感に繋がるようにしている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族等の関係者からの情報と本人の現状を照らし合わせながら対応している。併設事業の専門職にも助言等を求め、幅広い視点で様々な意向を捉えるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に対し、礼節を重んじた雰囲気作りを重視し、研修やミーティング等を通して、それを常に意識できる環境作りに努めている。その上で、声かけの方法や活動内容を工夫し、互いに支え合う関係性の構築に繋げている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一定の面会制限は継続しているが、極力対面での面会機会の確保に努め、家族の視点での利用者への思いや要望を確認できるようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外部との交流や移動が制限される中、今後に向けて担当毎に再度アセスメントを実施し、改めて生活歴の把握に繋げている。状況に応じて短時間での外出等を通し、馴染みの場所へ訪れる機会を設ける。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ることで利用者同士の会話や活動のきっかけ作り、関係性の構築に繋げている。それにより個性を理解し合える場面も垣間見える。今後も関係性が深まるようサポートしていく。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もお知らせや知り合いの方の入居相談等があり、関係性も継続している。今後もこれを維持することで、可能な限りサポートする。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員主導とならないよう、利用者の心身状態を複数の視点で把握し、ユニット内にて検討を重ねることで、積極的に実現に繋げている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本情報等をもとに、馴染みの生活用品等を知ることで、本人のこだわりや暮らし方の把握している。急な生活環境の変化は不安感等を招き心身機能にも影響するため、特に気を配る部分としている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者それぞれが自分のペースで過ごせる環境作りに努めている。安全面にも注意を払いながら、事業所主体とならない一日の流れを意識している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は自身のみならず利用者毎の担当者から得た情報をもとに、本人及び家族の意見や意向も踏まえて計画に反映させている。作成の過程での気づきも組み入れることで、個々の現状に沿った計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	専用ソフトを活用しながら、事業所の状況や用途に沿った内容に適宜変更している。ユニット毎の簡易的な共有ノートも活用し、円滑な情報共有やケアの見直しに繋げている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族双方の多様な希望を把握することとしている。限られた時間の中で、その実現に向けて時には併設施設のサポートも得ながら、柔軟に対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状も直接的な関わりは制限があり難しいため、オンライン等の機器を活用し、状況を見ながら段階的に取り組んでいきたい。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまで受診していた医療機関をできるような本人の希望に沿うこととしている。合わせて、かかりつけ医へは事前に相談、連絡体制を取ることで、状況に応じて受診できるよう支援している。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと共通の記録を使用することで、情報共有を図っている。また、受診の必要性を始め、常時相談できる体制となっている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	グループ法人である社会医療法人が協力医療機関であり、緊急時の受け入れの他、主とした入院機関になることを踏まえ、日常から研修やイベント等を通して、MSW等との交流や意見交換に取り組んでいる。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時にこれまでの例を交えながら具体的に説明している。体調等の変化によってその意思も変化するため、随時関係職種を交えて再確認している。本人に限らず家族へも心情に配慮する必要があり、それと合わせて宿泊や休息できるスペースを確保している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルやAED、吸引器等の備品の整備とその使用方法の確認を適宜行っている。定期的な実地研修も実施することで、発生時に適切に対応できるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	BCP策定や災害時のマニュアルの整備、年複数回の定期的な訓練を実施し、災害発生時に備えている。避難経路も複数設け、設備も充実させている。地域との共同訓練は実施できていない、状況を見ながら再開していく。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	まずは一社会人として接遇マナーを意識できるよう、定期的に研修を実施している。丁寧な言葉遣いは丁寧な支援に繋がることを意識しつつ、声の大きさに配慮し、特にプライバシーの部分は、言葉を選びながらの支援を徹底している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりを職員間で共有することで、全体で希望や意向を把握できるようにしている。利用者個々の表情や口調の変化にも気づくことができるよう何気ない会話も意識している。食事や入浴では、その都度意向を確認しながら、それに応じて支援している。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間の流れに拘り過ぎず、一人ひとりの心身状況に合わせて希望を確認し、利用者のペースで一日を過ごせるようにしている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者が選ぶものを着用できるようにそのサポートをしている。理美容についても定期的に本人や家族の要望を確認した上で訪問型を活用する等、おしゃれを楽しむことで、生活意欲の向上に繋げている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は時季の食材を積極的に取り入れ、バランスと色合いにも気を配っている。利用者には盛り付けやセッティングを手伝ってもらうことで役割の創出にも繋げている。イベントの他、定期的なメニューも利用者と協力して作る機会を設けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は毎回記録に残し職員間で共有している。適宜管理栄養士へも相談し、補助食品や食事形態の変更等を行っている。食事摂取のタイミングや時間帯も可能な限り希望に沿いながら提供している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、就寝前の口腔ケアを徹底することで、口腔環境の清潔保持に繋げている。その際に義歯の不具合も確認している。口腔環境の悪化は心身の低下も招くため、随時協力歯科機関へ相談している。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングにも配慮している。声かけも工夫することで、不快なく排泄できるようにしている。自立した排泄に向け、トイレの設置場所や設備も充実させ、利用者職員双方の負担軽減に繋げている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は生活意欲の低下に直結するため、チェック表をもとに随時確認している。水分摂取、運動を適宜取り入れながら、状況に応じて主治医や訪問看護に相談し、排泄に繋がるよう努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴時間は本人の希望に沿ったタイミングで提供できるようにしている。シャワールームやシャンプー台を設置することで、気分に合わせた形式で提供している。皮膚状態にも配慮できるよう備品を準備し、機器も活用しながら浴槽に浸かれるようにしている。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠りスキャンを活用することで睡眠覚醒状況や睡眠の質を把握し、メリハリのある日常生活に繋げている。ベッドや寝具類は、温かみのある色合いと感触が心地よいマットレスを導入している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬は必ず説明書を確認することとし、誤薬は重篤な状態を招く危険性があることを踏まえ、セット時や服用時には二重チェックを徹底している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	イベントの準備や日常生活上の活動においても、役割を設け取り組む機会を設けている。一つひとつのことに目標を持って取り組むことができるようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	制限中でも、短時間でのドライブ等を通じて気分転換に繋げている。物足りない日常にならないよう、屋内活動が充実するよう取り組んでいる。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に個別に財布を準備してもらっている。外出しての買い物の頻度が減っているため、移動スーパーを活用し、実際に品物に触れる機会にもなっている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通常の電話連絡のみではなく、オンラインによるテレビ電話を活用している。慣れない利用者によっては戸惑いも生じるが、その状況に合わせて臨機応変に活用している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全方向から中庭を臨める構造としており、四季の移ろいを感じ取れる。リビングには床暖房を活用し、乾燥に配慮して温度調整もしている。室内の壁紙や家具類も、外観と同様に温かみのある色合いに統一している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自由に使用できる多目的室を設け、独りの時間や家族等との時間に活用している。家具類も設置し、本棚も設置することで、ゆっくりと過ごせる空間としている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の備品は馴染みのものを持ち込むよう勧めている。居室は基準以上の広さであり、車椅子等での移動もスムーズにできる。室内清掃もこまめに行い、24時間換気を活用している。出窓や室内外の収納も充実させ、必要なものが手に届きやすい造りとしている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内に福祉用具の他、手すりを比較的多く設置し、安全面の向上に繋げている。共用部は二重床構造とし、転倒による衝撃の低減を図っている。トイレは個室に無い分、共用部の設置数を増やし、設備も充実させることで職員、利用者双方の安全性の向上に繋げている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
<b>V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）</b>				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			<input type="radio"/>	②家族の2／3くらいと
			<input type="radio"/>	③家族の1／3くらいと
			<input type="radio"/>	④ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のようにある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	<input type="radio"/>	①大いに増えている
			<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
			<input type="radio"/>	③あまり増えていない
			<input type="radio"/>	④全くいない
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			<input type="radio"/>	②職員の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③職員の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			<input type="radio"/>	②家族等の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③家族等の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない